

市債の状況

市は、公共施設や道路など、将来にわたり、使用する施設などの整備にあたり、国や金融機関から資金を借り入れることができ、これら市の借金を市債といたします。

市債残高の状況

区分	残高	
一般会計	212億5,245万円	
特別会計	学校給食事業特別会計	844万円
	簡易水道事業特別会計	1億6,737万円
合計	214億2,825万円	

※2019年3月31日が日曜日のため、4月1日に償還した市債も残高から差し引いています。

市有財産の状況

市は、市民サービスの提供に活用するために土地や建物を所有しているほか、特定の目的や

市有財産の状況

区分	残高	
土地	686.1万平方メートル	
建物	27.5万平方メートル	
基金など	現金	30億3,277万円
	土地	11.6万平方メートル
出資金・債権など	出資金など	1億690万円
	債権	4億4,965万円

市民一人当たり換算した場合

- ◇一人当たりの収入額 …………… 40万 456円
- ◇一人で負担する市税 …………… 10万1,031円
- ◇一人当たりの支出額 …………… 36万2,565円
- ◇一人当たりの市債残高 …………… 44万7,065円
- ※人口（2019年3月31日現在） …………… 4万7,931人

一時借入金状況

万が一のときに使える預金（基金）などを保有しています。

市は、一時的な資金不足により、市民への給付や納入業者への支払いに支障を生じさせないよう、金融機関から一時的に資金を借り入れています。

こうした市の借り入れを一時借入金といいます。

2019年3月31日現在の借入金残高は、一般会計で3億円となっています。

※特別会計の一時借入金はありません。

市の財政動向と今後の財政運営について

市の収入のうち、市税は市民の皆さんから納入していただく安定的な収入で、近年は51億円台で推移しています。財政運営を行う上では、収入のうち、市税の占める割合が高いことが望ましいとされていますが、登別市は、他の自治体と比べ低く、一方で国から交付される地方交付税の占める割合が高くなっています。

◆基金の動向◆

占めている状況にあります。

特定の事業に使用するため、また、財源の調整を図るため、市は、基金（預金）の積み立てをしています。

このうち、万が一のときの備えとして基金（財源調整用基金）の2018年度の残高は、前年度比で約1・9億円減少しました。

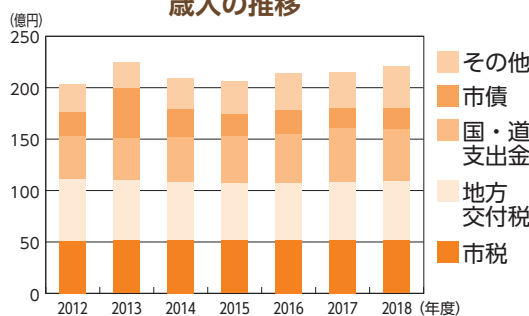
また、支出のうち、公債費や人件費のほか、扶助費（生活保護費や福祉関係の給付費などの社会保障費）が、歳出の多くを

収入に占める地方交付税の割合が高い本市においては、人口減少などによる市税収入の減少や、国の計画や財政状況などにより地方交付税が減額となった際などに備え、支出を抑制するなど、基金（預金）残高を一定程度保有しておく必要があります。

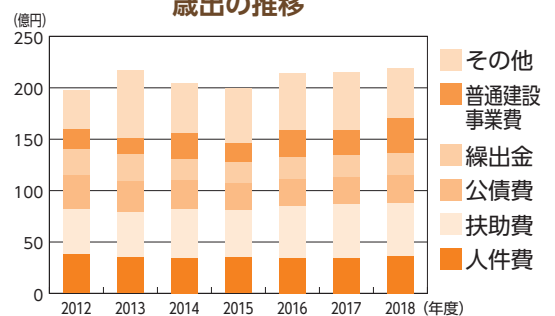
◆将来への備え◆

歳入の面では、国の動向などに左右されない安定的な収入や万が一のときに自由に使える基金（預金）を確保することに努

歳入の推移



歳出の推移



め、歳出の面では、事務事業評価や予算編成などを通じて、事業の必要性、効率性について不断の見直しを行うなど、将来にわたり安定的で健全な財政運営を行ってまいります。